

有機果樹園(枇杷)・有機水田研修会の開催

～セブン・イレブン記念財団事業～

荒木川流域プロジェクト（国東市安岐町）の一環として、去る2月16日〔土〕に国東市安岐町の社会福祉法人共生荘障がい者サポートセンターの三角ベースさん及び地元の方々のご協力により、三角ベースさんの「ビワ園」と「やまのいえ」で標記の研修会を開催したのでご報告します。

参加者は関係者を含めて23名で、9時30分に安岐総合支所に集合して、車に分乗してビワ園に向かいました。

このビワ園は何年も栽培放棄されていたのですが、これを三角ベースさんが購入して再生しようというものです。

当日は、講師として当研究会の前理事長でした吉野賢一先生（大分短期大学園芸科教授）からビワの生理生態、栽培方法並びに薬用利用のポイント等を資料に基づき説明をいただき、続いて整枝剪定の現地講習を行いました。

当ビワ園は大変な荒廃状態で、整枝剪定以前に園内の雑木等の伐採片付けに相当な労力がかかる状況です。そのため、当日の講習会のために三角ベースさんが園の一部を整備していたので、講習会を無事行うことができました。

しかしながら、ビワ樹の枝は立ち上がり、巨木となっているため、5～6年かけて整枝を行うように吉野先生から指導があり、当日は混み合った立ち枝数本を整理するに止めるよう指導を受けながら参加者全員で鋸を使って整枝を行いました。

三角ベースさんが購入したこのビワ園は2haほどあるということで、今後整備するには大変な作業を要するものと思われます。その姿勢には頭が下がります。将来は、薬用と青果での両方の利用を計画しているそうです。今後立派な有機ビワ園として復活することを期待しています。



ビワの講習会を終了した後、三角ベースさんの「やまのいえ」に会場を移して、参加者全員で三角ベースさんが作ってくれた昼食をいただきました。この昼食には三角ベースさんが栽培した有機の米や野菜等をふんだんに使用しており、加えてイノシシ汁など多彩でしかも非常に美味しい昼食をいただきました。また、桑やビワのお茶もいただき、今後の薬用茶等の製品化についても話が弾みました。

午後は、当研究会の検査員でもあり、自ら有機農業を実践している森岡雄平先生（豊後大野市有機農業推進協議会会長）から「わたしの有機稲作の実践」ということで、講演をいただきました。合鴨農法や除草対策等々さすがに自らJAS認証をとって実践している森岡先生ならではの講演は濃密で、出席者の皆様には大変興味深く参考になったようです。そのため、参加者の皆さんから質問が尽きず、意見交換は終了予定時間が来ても延々と続きました。

意見交換はなかなか終わりそうになかったのですが、今後とも情報交換などを継続しながらお互い頑張りましょうと約束して、予定時間を30分ほどオーバーし、16時前に研修会を終了しました。

帰り際には、参加者全員にお土産として手作りの有機パンやジビエ（イノシシ肉、鹿肉）をいただきました。これらも非常に美味しかったことを記して、有機農業研修会の報告とします。



(有光宏之)